

# 地理歴史

## (地理A)

発行者の番号略	教科書の記号番	判型	総ページ数	検定済年
2 東書	地A307	B5	224	平成28年
46 帝国	地A308	B5	218	
130 二宮	地A309	B5	206	
183 第一	地A310	AB	216	
35 清水	地A311	B5	206	平成29年
46 帝国	地A312	AB	190	

※総ページ数は、目録に記載されている数

# 1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者及び教科書の番号

地理 A		冊数	6冊
発行者の略称・教科書の番号	東書307 帝国308 二宮309 第一310 清水311 帝国312		

## 2 学習指導要領における教科・科目の目標等

### 【地理歴史の目標】

我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。

### 【地理Aの目標】

現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

### 【地理Aの内容及び内容の取扱い】

「内容」の抜粋	「内容の取扱い」の抜粋
(1) 現代世界の特色と諸課題の地理的考察 ア 地球儀や地図からとらえる現代世界 イ 世界の生活・文化の多様性 ウ 地球的課題の地理的考察  (2) 生活圏の諸課題の地理的考察 ア 日常生活と結び付いた地図 イ 自然環境と防災 ウ 生活圏の地理的な諸課題と地域調査	(1) 内容の全体にわたって、次の事項に配慮するものとする。 ア 1の目標に即して基本的な事項・事柄を精選して指導内容を構成すること。 イ 地理的な見方や考え方及び地図の読図や作図、衛星画像や空中写真、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導すること。(略) ウ 地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、討論したりするなどの活動を充実させること。 エ 学習過程で、政治、経済、生物、地学的な事象なども必要に応じて扱うことができるが、それらは空間的な傾向性や諸地域の特色を理解するのに必要な程度とすること。 オ 各項目の内容に応じて日本を含めて扱うとともに、日本と比較し関連付けて考察させること。 (2) 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。 ア 内容の(1)については、次の事項に留意すること。 (ア) アについては、球面上の世界のとらえ方に慣れ親しませるよう工夫すること。日本の位置と領域については、世界的視野から日本の位置をとらえるとともに、日本の領域をめぐる問題にも触れること。(略) (イ) イについては、世界諸地域の生活・文化について世界を広く大観する学習と事例地域を通して考察する学習を組み合わせることで扱うこと。(略) (ウ) ウについては、地球的課題ごとに世界を広く大観する学習と具体例を通して考察する学習を組み合わせることで扱うこと。(略)

### 3 教科書の調査研究

#### (1) 内容

##### ア 調査研究の総括表（調査結果は「別紙1」）

調査項目	対象の根拠（目標等との関連）	数値データの単位
a 地図の読図や作図などを主とした作業的、体験的な学習を取り入れるなど地理的スキルが身に付くように工夫されている箇所数	目標及び内容の取扱い《(1)イ地理的スキルの育成》	個
b 各項目における日本について取り扱っているページ数及び全体に占める割合	目標及び内容の取扱い《(1)オ日本の取扱い》	ページ %
c 「自然環境と防災」のページ数及び全体に占める割合	内容(2)イ	ページ %

##### イ イ 調査項目の具体的な内容（調査結果は「別紙2」）

###### ① 教科書の特徴をより明確にするため、具体的に調査研究する事項

<上記調査項目関連>

###### c 「自然環境と防災」に関する内容

<その他>

- \* 我が国の領域をめぐる問題の扱い
- \* 国旗・国歌の扱い
- \* 北朝鮮による拉致問題の扱い
- \* 防災や、自然災害時における関係機関の役割等の扱い
- \* 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い
- \* オリンピック、パラリンピックの扱い

###### ② 具体的に調査研究する事項を設定した理由等

- ・ 学習指導要領に定められた「内容」に「国内にみられる自然災害の事例を取り上げ、地域性を踏まえた対応が大切であることなどについて考察させる」とあることから、各教科書を比較検討するために上記cの事項を調査する。
- ・ 学習指導要領に、内容の範囲や程度等を示す事項は、当該科目を履修する全ての生徒に対して指導するものとする内容の範囲を示したものであり、学校において必要がある場合には、この事項にかかわらず指導することができるため、発展的な内容を取り上げている箇所について調査する。
- \* 我が国の領域をめぐる問題及び国旗・国歌については、学習指導要領総則に基づき、これらの問題を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。
- \* 北朝鮮による拉致問題については、東京都教育委員会教育目標の基本方針1に基づき、人権尊重の理念を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。
- \* 東京都では、自然災害における被害を最小化し、首都機能の迅速な復旧を図る総合的なリスクマネジメント方策の確立が喫緊の課題であり、防災教育の普及等により地域の防災力の向上が重要であることから、防災や自然災害における関係機関の役割等について考察させることを通じて、これらの問題を正しく理解できるようにするため、防災や、自然災害時における関係機関の役割等の扱いについて調査する。
- \* 学習指導要領に基づき、環境に係る諸問題を考察させることを通じて、これらの問題を正しく理解できるようにするため、一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱いについて調査する。
- \* 東京都教育委員会教育目標の基本方針2・3に基づき、文化・スポーツに親しみ、国際社会に貢献できる日本人を育成するという観点から、オリンピック・パラリンピックの扱いについて調査する。

#### (2) 構成上の工夫（調査結果は「別紙3」）

- ① コラム・資料・トピックスの扱い方
- ② 視覚的資料(写真、図・イラスト、グラフ、表など)
- ③ ゴシック等の用語
- ④ 編集上の工夫・その他

「別紙1」 【(1) 内容 ア 調査研究の総括表】 (地理A)

調査項目			a			b		c		
			が体地に付くよう取工夫されている箇所の数			現代世界の特色と諸課題の地理的考察		生活圏の諸課題の地理的考察		
発行者	教科書番号	教科書名	個	ページ	%	ページ	%	ページ	%	(全体のページ数)
東書	307	地理A	40	51	22.8	38	17.0	20	8.9	224
帝国	308	高等学校 新地理A	65	48	22.0	37	17.0	20	9.2	218
二宮	309	基本地理A	20	65	31.6	33	16.0	18	8.7	206
第一	310	高等学校 新版 地理A 世界に目を向け、地域を学ぶ	67	71	32.9	42	19.4	16	7.4	216
清水	311	高等学校 現代地理A 新訂版	21	60	29.1	41	19.9	20	9.7	206
帝国	312	高校生の地理A	38	78	41.1	38	20.0	18	9.5	190
平均値			41.8	62.2	29.6%	38	18.2%	19	1.6%	

・全体のページ数は見返しと裏見返し等を含めている。

・aは、地図の読図や作図などを主とした作業的、体験的な内容を数えた。

・bは、日本について取扱っている箇所のページ数と全体のページ数に対する割合を小数第2位で四捨五入した値である。

・cは、「自然環境と防災」の単元のページ数と全体のページ数に対する割合を小数第2位で四捨五入した値である。

「別紙２－１」【（１）内容 イ 調査項目の具体的な内容 ｃ 「自然環境と防災」に関する内容】（地理Ａ）

発行者	教科書番号	教科書名	国内に見られる自然災害の扱い
東書	307	地理A	<p>・「種類」 地震、津波、火山、洪水、台風、噴火、土砂災害、高波、高潮、やませ、冷害、干ばつ、豪雪、液状化、火砕流、火山灰、噴石、泥石流、土石流、崖くずれ、地滑り、強風、赤土の流失、集中豪雨、ヒートアイランド</p> <p>・「具体例」 2003年台風10号北海道大雨、東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）、安政東海大地震、安政南海大地震、1946年南海地震、兵庫県南部地震（阪神淡路大震災）、有珠山噴火、1944年溶岩ドーム昭和新山、雲仙普賢岳の火砕流、1783年浅間山噴火、2014年広島市土砂災害、2013年台風18号京都市河川氾濫、2008年富山県高潮被害、2008年沖繩県大雨、2000年東海豪雨、1933年昭和三陸地震、2014年長野県北部地震、2013年秋田県土石流災害、2012年茨城県つくば市竜巻、2014年御岳山噴火、2014年京都府洪水、2014年埼玉県秩父豪雪</p>
帝国	308	高等学校 新地理A	<p>・「種類」 地震、土砂災害、洪水、台風、干ばつ、海溝型地震、直下型地震、液状化現象、津波、火山灰、噴石、火砕流、溶岩流、風水害、崖崩れ、地滑り、土石流、高潮、竜巻、地吹雪、暴風雪、なだれ、外水氾濫、内水氾濫、ゲリラ豪雨、都市型水害</p> <p>・「具体例」 2003年青森県台風、長野県北部地震、北海道南西沖地震、北海道東方沖地震、十勝沖地震、岩手・宮城内陸地震、日本海中部地震、東北地方太平洋沖地震、関東大震災、濃尾地震、東海地震、新潟地震、新潟県中越沖地震、新潟県中越地震、福井地震、東南海地震、南海地震、兵庫県南部地震、鳥取県西部地震、福岡県西方沖地震、御嶽山噴火、雲仙普賢岳噴火、2013年京都洪水、2013年北海道暴風雪、1976年濃尾平野洪水、2013年東京都ゲリラ豪雨、2014年広島市土砂災害</p>
二宮	309	基本地理A	<p>・「種類」 融雪洪水、地盤沈下、台風、集中豪雨、豪雨、洪水、豪雪、強風、高潮、ヒートアイランド現象、内水氾濫、外水氾濫、都市型水害、土砂災害、地すべり、急傾斜地の崩壊、土石流、火山の噴火、火砕流、噴石、火山ガス、溶岩流、海溝型地震、津波、直下型地震、液状化</p> <p>・「具体例」 2013年京都洪水、2014年山梨県早川町豪雪、2012年熊本県高潮、2011年沖繩県台風、2014年広島県土石流、1991年雲仙普賢岳噴火、2014年御嶽山噴火、2011年東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）、1995年兵庫県南部地震（阪神淡路大震災）</p>
第一	310	高等学校 新版 地理A 世界に目を向け、地域を学ぶ	<p>・「種類」 水害、台風、ヒートアイランド現象、ゲリラ豪雨、地震、プレート境界地震、活断層地震、火山の噴火、溶岩流、火砕流、火山灰、水害、土石流、内水氾濫、内陸直下型地震</p> <p>・「具体例」 2004年新潟県水害、御嶽山噴火、兵庫県南部地震、霧島山噴火、関東大震災、北丹後地震、昭和三陸地震津波、鳥取地震、昭和東南海地震、三河地震、枕崎台風、昭和南海地震、カスリーン台風、福井地震、西日本水害、南紀豪雨、洞爺丸台風、狩野川台風、伊勢湾台風、阪神・淡路大震災、東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）、2000年有珠山噴火、2004年福井水害、2009年山口県土石流、2015年茨城県常総市河川氾濫</p>
清水	311	高等学校 現代地理A 新訂版	<p>・「種類」 地震、津波、台風、大雨、土砂災害、雪害、火山、海溝型巨大地震、断層、活断層、津波地震、火山性地震、山崩れ、活火山、土石流、洪水、河川洪水、内水氾濫、水害、地すべり、ハザードマップ</p> <p>・「具体例」 2011年東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）、1959年伊勢湾台風、2000年北海道有珠山火山、1923年関東地震、1944年東南海地震、1946年南海地震、1968年十勝沖地震、1995年兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）、1983年日本海中部地震、1993年北海道南西沖地震、1960年チリ地震によって生じた津波、伊豆大島火山の溶岩流、桜島の噴煙、鹿児島沖の鬼界カルデラ巨大噴火、1792年長崎県雲仙岳噴火（島原大変肥後迷惑）、2014年御岳山噴火、1993年雲仙普賢岳噴火、1707年富士山宝永噴火、2015年茨城県常総市鬼怒川堤防決壊、1981年茨城県小貝川氾濫、1947年カスリーン台風、江戸の三大洪水、2008年岩手・宮城内陸地震による地すべり、2010年鹿児島県南大隅町土石流災害、2014年広島県土砂災害、東京都圀川・中川合流地の浸水、中川・圀川・綾瀬川</p>

「別紙2-1」【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 c 「自然環境と防災」に関する内容】 (地理A)

発行者	教科書番号	教科書名	国内に見られる自然災害の扱い
帝国	312	高校生の地理A	<p>・「種類」 地震、火山の噴火、土砂災害、洪水、台風、干ばつ、冷害、海溝型地震、直下型地震、液状化現象、津波、火山灰、噴石、火砕流、火山ガス、溶岩流、崖くずれ、地滑り、土石流(火山泥流)、風倒木、土石流、高潮、竜巻、暴風雨、豪雪、なだれ、氾濫、浸水、都市型水害、局地的大雨(ゲリラ豪雨)、ヒートアイランド現象、風水害、火災の発生、ハザードマップ</p> <p>・「具体例」 2014年長野県北部地震、1993年北海道南海沖地震、1994年北海道東方沖地震、1952年十勝沖地震、2003年十勝沖地震、2008年岩手・宮城内陸地震、1983年日本海中部地震、2011年東北地方太平洋沖地震(2011年東日本大震災)、1923年関東大震災、1891年濃尾地震、1944年東南海地震、1946年南海地震、2000年東海地震、1964年新潟地震、2007年新潟県中越沖地震、2004年新潟県中越地震、1948年福井地震、1995年兵庫県南部地震、2000年鳥取県西部地震、2005年福岡県西方沖地震、2016年熊本地震、2014年御嶽山噴火、西之島噴火、有珠山噴火、1990～1995年雲仙普賢岳噴火、2014年京都府福知山市洪水、2005年東京都杉並区善福寺川氾濫浸水、1976年濃尾平野洪水、2011年愛知県春日井市浸水、2014年広島市土砂災害、2014年兵庫県丹波市土砂災害、2014年長野県大雪</p>

発行者	教科書番号	教科書名	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	尖閣諸島に関する記述の概要
東書	307	地理A	<p>(P13 図5)『日本の領域と排他的経済水域』と併せて、択捉島、南鳥島、与那国島、沖の鳥島の写真を掲載している。</p> <p>(P13 図6)尖閣諸島(2013年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東シナ海上の尖閣諸島は、日本が固有の領土として実効的な支配を続けているが、中国がその領有権を主張している。写真は魚釣島。</li> </ul> <p>(P14 図『北方領土と周辺地域の歴史』)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島からなる北方領土は日本固有の領土であるが、現在、ロシアによって不法に占拠されており、日本は返還を求めている。北緯50度以南の樺太と千島列島は、1951年に調印されたサンフランシスコ平和条約で日本は放棄し、現在、帰属未定である。④の図のように「国境線」が引かれ、陸地部分を白く表現するのは、このためである。</li> <li>・ロシアとの間に北方領土をめぐる領土問題がある。</li> </ul>	<p>(P14 本文)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国との間に竹島をめぐる領土問題がある。</li> </ul> <p>(P14 注記)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本海上の竹島は日本固有の領土であるが、韓国によって不法に占拠されており、日本はこれに抗議を行っている。</li> </ul>	<p>(P13 図6)尖閣諸島(2013年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東シナ海上の尖閣諸島は、日本が固有の領土として実効的な支配を続けているが、中国がその領有権を主張している。写真は魚釣島。</li> </ul>
帝国	308	高等学校新地理A	<p>(P13 図『北方領土』)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日露通好条約、樺太・千島交換条約、ポーツマス条約、サンフランシスコ平和条約と北方領土をめぐる歴史が示されている。</li> </ul> <p>(P13 本文)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の領域は、外国との交渉や戦争のあとに結ばれる条約などによって、時代とともに変化してきた。国後島・択捉島・色丹島・歯舞群島からなる北方領土は、日本固有の領土である。サンフランシスコ平和条約で、日本は樺太(サハリン)の南半部と千島列島を放棄したが、北方領土の4島はその放棄地に含まれていない。しかし、第二次世界大戦後はソ連に占領され、現在もロシアが不法に占拠した状態となっている。日本はロシアに対してその返還を求め続けているが、いまだに実現していない。</li> </ul>	<p>(P13 写真『竹島』)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国は竹島に海洋警察隊をおいたり、灯台や埠頭などを建設したりして、不法に占拠している。</li> </ul> <p>(P13 本文)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本海にある竹島は、1905年に明治政府が国際法に従って島根県に編入し、日本固有の領土と再確認されている。しかし、1952年から韓国が一方的に竹島を自国の領土と主張し、不法に占拠しているため、日本は国際司法裁判所への共同提訴を3回も提案してきたが、韓国がこれに応じずに現在にいたっている。</li> </ul>	<p>(P13 写真『尖閣諸島』)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本が尖閣諸島の大半を国有化し、領土の保全に努めている。</li> </ul> <p>(P13 本文)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東シナ海にある尖閣諸島は、慎重な調査ののち、1895年に沖縄県に編入された日本固有の領土である。尖閣諸島をめぐる領有権の問題はそもそも存在しないが、周辺の水域に資源の埋蔵が確認された1970年代から、中国が一方的に領有権を主張している。</li> </ul>
二宮	309	基本地理A	<p>(P20 図)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の領域と排他的経済水域・大陸棚</li> </ul> <p>(P20 本文)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本は、ユーラシア大陸の東の海上にある。多くの島からなる国である。日本の領土面積は約38万km<sup>2</sup>であるが、内水を含む領海は約43万km<sup>2</sup>、排他的経済水域(EEZ)は約405万km<sup>2</sup>にもなる。太平洋側では、ほかの国・地域の排他的経済水域と接する場所が少ないので、200海里の排他的経済水域を広く設定することができる。日本の最南端の沖ノ島、最東端の南鳥島は太平洋上の孤島であるため、それぞれ約40万km<sup>2</sup>の円形の排他的経済水域をもつ。一方、日本海や東シナ海では、ロシア・韓国・中国と接しているため、地理的中間線を排他的経済水域の境界としており、領土・領有権問題もあり、水域の境界が確定していないところもある。</li> </ul> <p>(P21 図『北方領土に関する条約の経緯』)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日露和親条約、樺太・千島交換条約、ポーツマス条約、サンフランシスコ平和条約と北方領土をめぐる歴史が示されている。</li> </ul> <p>(P21 本文)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・択捉島・国後島・色丹島・歯舞群島の北方領土には、第2次世界大戦時に1万7000余りの人々が生活していたが、1945年位ソ連が占領し、約半数の日本人が島を離れ、残った人々も1947年から1948年に強制的に退去させられた。以来、ソ連(現ロシア)による占拠が続く、領土問題が生じている。北方領土は、1855年に最初に日本とロシアとの国境を定めた日露和親条約以来、日本固有の領土である。日本は1951年に調印したサンフランシスコ平和条約により千島列島と南樺太の領有権を放棄したが、放棄した千島列島に北方領土は含まれず、一貫して強く返還を要求している。なお、サンフランシスコ平和条約に当時のソ連は署名しなかった。日本とソ連は1956年の日ソ共同宣言で国交を回復したが、この宣言では、色丹島と歯舞群島は、両国間で平和条約が結ばれた際に日本に引き渡すことが同意されている。</li> </ul> <p>(P.115本文)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本とロシアとの間には北方領土問題があり、平和条約が締結されていない。</li> </ul>	<p>(P21 写真『竹島』)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹島の面積などが記述されている。</li> </ul> <p>(P21 本文)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹島の領有権問題</li> <li>・竹島は、隠岐諸島の北西約158万km<sup>2</sup>の日本海上にある群島で、島根県隠岐の島町に属している。すでに江戸時代には日本は竹島の領有権を確立しており、1905年、日本は竹島を島根県に編入し、領有する意思を再確認した。第2次世界大戦後、1951年に署名されたサンフランシスコ平和条約では、日本が放棄する領土として「済洲島、巨文島および鬱陵島を含む朝鮮」と明記された。この際、韓国は竹島も日本が放棄すべき領土とするよう連合国への働きかけを行ったが、竹島は日本固有の領土であり、連合国は放棄すべき領土から除外した。しかし、1953年在日米軍爆撃訓練区域の指定が解除されると、韓国の沿岸警備隊が占拠し、現在に至っている。日本政府は韓国政府に強く抗議をしている。</li> </ul> <p>(P21 図『竹島の位置』)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹島の位置が示されている。</li> </ul>	<p>(P21 コラム)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・尖閣諸島は、東シナ海に浮かぶ魚釣島(うおつりじま)をはじめとする島嶼(とうしょ)群で、沖縄県石垣市に属する。明治政府は清国の支配が尖閣諸島におよんでいないことを確認し、1895年、正式に沖縄県に編入した。第2次世界大戦後、サンフランシスコ平和条約により沖縄の一部としてアメリカの施政下に置かれ、1972年に日本に返還された。1970年代以降、中国が領有権を主張しているが、現に日本が有効に支配しており、領有権問題は存在しない。</li> </ul>

発行者	教科書番号	教科書名	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	尖閣諸島に関する記述の概要
第一	310	高等学校 新版 地理A 世界に目を向け、地 域を学ぶ	(P13 コラム) ・北方領土とは、国後島・択捉島・色丹島・歯舞群島の四島を指す。第二次世界大戦後にソ連によって占領され、そこに暮らしていた日本人は1949年までに強制的に本土へ引き揚げさせられた。北方領土は現在も事実上ロシアによって統治されている。北方領土は日本固有の領土であり、日本はロシアに対して返還を求め続けている。 (P113 本文) ・極東ロシアは日本海を挟んで対岸に位置し、日本との関係が深い。ここにはスラブ系ロシア人のほか、日本人と顔立ちが似ている先住少数民族も暮らしている。これまでは厳しい自然条件や道路、港湾など生産基盤の未整備のために開発が遅れていたが、パイプラインや港湾の整備が進み、2009年にはサハリン産の天然ガスが日本へ輸出されるようになった。日本海に面した自治体や民間団体には独自の交流事業を進めているところもあるが、両国が関係をいっそう強化するには、日本が強く求めている北方領土の返還問題と平和条約の締結という政治課題を解決するとともに、ロシアの政治・経済の不安定さを解消する必要がある。	(P13 コラム) ・日本は現在、ロシアとの間に北方領土問題を、韓国との間に竹島(島根県)の領有権問題をかかえている。日本の領土である竹島は韓国に占拠されており、日本は国際法に則った平和的解決を求め続けている。	(P13 コラム) ・尖閣諸島(沖縄県)は、1968年に石油埋蔵の可能性が明らかになり、1970年代に入り中国や台湾当局が領有権を主張し始めたが、日本が有効に支配している。
清水	311	高等学校 現代地理A 新訂版	(P12～13 本文) ・日本には、解決していない領土問題が存在している。日本固有の領土である歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島の北方領土は、第二次世界大戦後、ソ連の占領下におかれてきた。ソ連解体後もロシアが占領しており、現在、日本はこれらの返還を求め、政府間の話し合いを行っている。 (P13 地図) ・日本の領土と排他的経済水域 (P13 写真『北方領土をのぞむ』) ・手前は野付崎。遠景は国後島。(地図有) (P77 本文) ・日本とロシアの間には北方領土問題があるため、距離的には近いにもかかわらず両国の関係はなかなか深まらない。	(P13 本文) ・島根県に属する竹島も、日本固有の領土であるが、領有権を主張する韓国が島を占領しており、日本は国際法にのっとり平和的な解決を求めている。	(P13 本文) ・沖縄県の尖閣諸島も日本固有の領土であるが、近年、中国が領有権を主張している。 (P13 注記) ・日本政府は、尖閣諸島について「領有権問題は存在しない」との立場をとる。
帝国	312	高校生の地理A	(P16 写真『日本の北端』) ・日本の北端として択捉島の写真が掲載されている。 (P16 写真『日本の排他的経済水域の範囲』) ・択捉島が地図に明記されている。 (P17 写真『根室市の納沙布岬上空から見える北方領土の島々』) ・納沙布岬と歯舞群島の水島島が写る写真が掲載されている。 (P17 図『北方領土周辺の国境の移り変わり』) ・日本の領域は、外国との交渉や戦争の後に結ばれる条約などによって時代とともに変化してきた。 (P17 本文) ・日本とロシアの間には、北方領土問題がある。択捉島・国後島・色丹島・歯舞群島からなる島々は、19世紀に、平和的な合意にもとづいて両国が認め合った日本固有の領土である。しかし、これらの島々は第二次世界大戦後、ソ連(現ロシア)に不法占拠されたままになっているため、日本はその返還を求め続けている。	(P16 写真『日本の排他的経済水域の範囲』) ・竹島が地図に明記されている。 (P17 写真『竹島』) ・日本固有の領土だが、韓国が海洋警察隊をおいたり、灯台や埠頭を建設したりして不法に占拠している。 (P17 本文) ・島根県の竹島では、江戸時代初期には米子の町人たちによって漁猟がおこなわれるようになっていた。1905年には、日本政府が国際法上の規定に従って島根県に正式編入し、日本固有の領土として国際的に確認された。しかし第二次世界大戦後に韓国が不法占拠し、それ以来、韓国政府は竹島が韓国領だと主張している。	(P16 写真『日本の排他的経済水域の範囲』) ・尖閣諸島が地図に明記されている。 (P17 写真『尖閣諸島』) ・日本固有の領土である。領有権の問題は存在していない。周辺の海域では原油などの資源が埋蔵されていることが確認されている。 (P17 本文) ・沖縄県にある日本固有の領土、尖閣諸島では、海底油田が確認された近年になって、中国が一方向的に領有権を主張するようになった。

※我が国の領域をめぐる問題として、ここでは「北方領土」及び「竹島」に関わる記述の概要について調査した。  
「その他」については、「北方領土」及び「竹島」以外で、我が国の領域をめぐる問題の扱いについて、特記すべき事項があれば記載している。



「別紙2-3」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 国旗・国歌の扱い】(地理A)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
東書	307	地理A	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
帝国	308	高等学校 新地理A	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	見返し	世界の食文化	イタリア、エジプト、スリランカ、ベトナム、ドイツ、モンゴル、メキシコ、エチオピア、アルゼンチン、ミクロネシアの食文化が国旗とともに紹介されている。
二宮	309	基本地理A	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
第一	310	高等学校 新版 地理A 世界に目を向け、地域を学ぶ	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
清水	311	高等学校 現代地理A 新訂版	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
帝国	312	高校生の地理A	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			

「別紙2-4」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 北朝鮮による拉致問題の扱い】 (地理A)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
東書	307	地理A	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	P.77コラム	第2編世界の生活文化の多様性 第2章諸地域の生活・文化と環境 1東アジアの生活・文化と環境	・日本人の「拉致」など反人権的行為を行ってきた北朝鮮は、国際社会から孤立している。
帝国	308	高等学校 新地理A	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	P.73コラム	1部世界の諸地域の姿と地球的課題 3章世界の諸地域の生活・文化 2節韓国の生活・文化	・北朝鮮は経済改革とともに対外関係の再構築に取り組んでいる。韓国や日本との首脳会談は実現したが、核兵器開発や日本人の拉致問題が交渉の進展を難しくしている。
二宮	309	基本地理A	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	P.77本文	第3章世界各地の生活・文化 第2節朝鮮半島	北朝鮮は、核開発など国際社会において孤立する傾向が強く、日本との間には拉致問題をかかえており、国交は開かれていない。
第一	310	高等学校 新版 地理A 世界に目を向け、地域を学ぶ	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	P.72本文	第1編現代世界の特色と諸課題の地理的考察 3章世界の諸地域の生活・文化と環境 1東アジアの暮らしを学ぶ	日本とは、2002年に初めての日朝首脳会談がひらかれ、一部の拉致被害者の帰国は実現したが、全面解決にはいたっていない。
清水	311	高等学校 現代地理A 新訂版	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>			
帝国	312	高校生の地理A	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>			

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
東書	307	地理A	有 無	P177 写真 P179 本文・図  P184 本文・図 P185 本文  P185 写真 P185 写真 P186 コラム  P187 本文  P187 写真 P187 図 P191 コラム	第4編身近な地域と地理的課題 第2章自然環境と防災 1日本列島の自然災害と防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>兵庫県南部地震の際のボランティア活動(1955年、神戸市)</li> <li>有珠山周辺のハザードマップ</li> <li>名古屋市によるハザードマップ</li> <li>墨田区などでは、写真4のように屋根に降った雨を樋で受け止めてためる雨水タンクへの助成金が出され、雨水を川へ流さず、有効に利用する工夫を行っている。</li> <li>大雨対策として墨田区が助成金をだして雨水タンクを設置</li> <li>『大雨対策のために地下に作られた放水路』</li> <li>岩手県釜石市内の小中学校では、生徒自身の判断によって避難が行われ、全生徒の99.9%が無事であった。</li> <li>大規模な災害の際には災害対策基本法にもとづいて、消防、警察、海上保安庁、自衛隊などが派遣され、被害者の救助や被災地域のライフラインの確保などに従事する(公助)。</li> <li>消防や自衛隊による捜索・救助活動</li> <li>災害発生時の情報伝達の流れ</li> <li>災害発生に備えて自治体や気象庁などから出される情報を常に確認できるようにしておこう。</li> </ul>
帝国	308	高等学校 新地理A	有 無	P184 本文  P185 本文  P185 本文 P185 図 P187 写真  P188 本文 P188 写真  P189 図 P192 図 P192 写真 P194 図 P196 本文 P197 本文 P197 図 P197 写真	2部身近な地域の課題 2章日本の自然環境と防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難所に指定した学校に食糧を備蓄することや、学校に太陽光発電装置を付けることなど学校を災害時の拠点にするという神戸市の政策</li> <li>東海地震に備えるための国や静岡県、県内の市町村の建物や橋などの耐震補強や崖崩れ防止工事といった地震対策や避難訓練</li> <li>南海地震に備えた高知県や和歌山県の避難路の整備や防災教育</li> <li>防災情報を提供する高知県のウェブサイト</li> <li>雲仙普賢岳と砂防施設</li> <li>鹿児島市の「克灰袋」や小中学校にエアコンを設置するなどの火山灰対策</li> <li>道路に積もった火山灰を除去する清掃車(上)と市民が「克灰袋」に集めた火山灰を出す指定置き場</li> <li>火山災害に備えた富士宮市富士山ハザードマップ</li> <li>港区が提供している水位・雨量情報ウェブサイト</li> <li>洪水対策の地下調節池</li> <li>気象庁がウェブサイトで発表している土砂災害警戒判定メッシュ情報</li> <li>東京都の帰宅困難者対策条例</li> <li>警察・消防・自衛隊・海上保安庁の被災地派遣</li> <li>災害が発生した時に被災地を支援するしくみ</li> <li>災害救助と復旧のための作業を行う自衛隊と消防隊</li> </ul>

「別紙2-5」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 防災や、自然災害時における関係機関の役割等の扱い】 (地理A)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
二宮	309	基本地理A	有 無	P184 本文 P184 写真 P184 図 P184 図  P185 本文	第5章生活圏の諸課題 第2節日本の自然環境と 防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気象庁からの緊急地震速報のしくみ、津波警報の発令、高知県の津波避難ビル</li> <li>・津波避難ビルの看板</li> <li>・緊急地震速報のしくみ</li> <li>・津波警告標識の例</li> </ul> <p>・地震災害時には、まず自分の命を守る行動をとり(自助)、近隣の人々と助け合い(共助)、警察や消防、自衛隊などの公的機関の支援を受ける(公助)。</p>
第一	310	高等学校 新版 地理A 世界に目を向け、地域を学 ぶ	有 無	P187 本文 P188 写真 P189 写真 P189 本文  P190 図	第2編生活圏の諸課題 の地理的考察 2章自然環境と防災 1自然災害に備えた暮らし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・延岡市は水害を受けやすいことから水害防備林が整備されている。</li> <li>・『津波避難場所を示した看板』</li> <li>・『河川の氾濫で被災した住民の救助に向かう自衛隊員』</li> <li>・大きな災害が広範囲に広がると、警察・消防など行政やライフライン各社による応急対策活動(公助)にも限界がある。</li> <li>・『津波浸水深図』</li> </ul>

「別紙2-5」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 防災や、自然災害時における関係機関の役割等の扱い】 (地理A)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
清水	311	高等学校 現代地理A 新訂版	有 無	P111 図 P143 図 P147 図 P148 本文  P149 図・注記  P151 図 P154 図 P155 図 P156 図 P157 図・注記  P159 図 P160 写真 P161 図・写真 P165 図 P170 写真・本文	第1編 現代世界の特色 と諸課題の地理的考察 第3章 地球的課題の地理的考察 第2編 生活圏の諸課題と地理的考察 第1章 日常生活と結び付いた地図 第2章 自然環境と防災 第3章 身近な地域の地理的課題と地域調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2011年4月22日当時の避難指示区域</li> <li>・防災対策におけるGISの例、高校生のつくった環境地図</li> <li>・防災気象情報のタイミング</li> <li>・防災基本計画では、地方公共団体に対し、災害発生危険個所を事前に把握し、災害範囲予測図(ハザードマップ)を作成することを求めている。そして避難所、避難路などを広く住民に知らせることで、被害の軽減をはかろうとしている。</li> <li>・洪水ハザードマップ</li> <li>・国土交通省ハザードマップポータルサイト</li> <li>・市町村別の各種ハザードマップ公表状況は、図3にある国土交通省ハザードマップポータルサイト(<a href="http://www.1.gsi.go.jp/">http://www.1.gsi.go.jp/</a>)で閲覧でき、ハザードマップそのものは各市町村の防災担当の窓口で入手することができる。</li> <li>・日本のおもな活断層の分布、全国地震動予測地図</li> <li>・チリ地震の津波</li> <li>・満潮時における東南海・南海地震の津波の予想高さ</li> <li>・津波ハザードマップ</li> <li>・おもな活火山の分布</li> <li>・火山の噴火警戒レベル</li> <li>・登山するには、気象庁の情報提供ページの確認やヘルメットを携帯するなどの準備が必要である</li> <li>・富士山の溶岩流可能性マップ</li> <li>・富士山の降灰可能性マップ</li> <li>・救助活動を行う自衛隊のヘリコプター</li> <li>・利根川・荒川の洪水の流路、電柱に表示された実績浸水</li> <li>・都道府県別急傾斜地崩壊危険個数、土砂災害ハザードマップ</li> <li>・圪川排水機場</li> <li>・東京都との境を流れる圪川と中川の合流地点には、1979年に建設された圪川排水機場があり、古くから水害への対策が行われている地域であった。</li> </ul>
帝国	312	高校生の地理A	有 無	P160 本文 P161 図 P168 写真 P169 写真 P169 コラム P172 写真 P178 図 P179 写真	第2部 身近な地域の課題 2章 日本の自然環境と防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然災害の多い日本では、行政を中心に、建築物の耐震化や防災施設の建設など、防災の取り組みが進められてきた。</li> <li>・高知県のウェブサイトで公開されているハザードマップ</li> <li>・御嶽山で行方不明者を捜索する自衛隊員</li> <li>・気象庁が24時間体制で行う火山の監視</li> <li>・有珠山周辺の防災教育</li> <li>・被災した住民を救出する自衛隊員</li> <li>・杉並区の洪水ハザードマップ</li> <li>・避難所となっている小学校</li> </ul>

「別紙2-6」 【(1) 内容 イ 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い】 (地理A)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
東書	307	地理A	有 無	P134 本文 P137 本文	第3編深刻化する地球的課題とその解決策 第1章地図で読み解く地球的課題 第2章さまざまな地球的課題 1世界の資源・エネルギー問題-資源枯渇の危機	<p>・私たちが自然から取り出し、利用してきたエネルギー資源には、次の2種類がある。まず再生可能(非枯渇性)エネルギー資源で、太陽光や太陽熱などの太陽エネルギーや、水力、風力などがある。薪や木炭などの森林資源も再生可能エネルギー資源であるが、その再生能力を上回って乱伐すると激減し、大量利用には適さない。これに対し、石炭、石油、天然ガスなどの鉱物(化石)資源は、人類誕生前から地球にあったもので、大量利用が可能であるが、再生されることがない枯渇性エネルギー資源である。</p> <p>・しかし現在得られる再生可能エネルギーは、化石燃料に比べると量的にはるかに少なく、生産コストも高い。その普及と価格面の不利を克服するためには、対策面での後押しがますます重要である。また、バイオエタノールの利用が急増するにもなって、トウモロコシなどの価格が急騰して、途上国における食料事情を圧迫するという事態も発生している。風力発電装置の導入に当たっても、景観をそこなう問題や環境に影響を与える問題などがあげられている。</p>
帝国	308	高等学校 新地理A	有 無	P155 本文 P157 本文	1部世界の諸地域の姿と地球的課題 4章地球的課題と私たち 3節世界の資源・エネルギー問題	<p>・資源エネルギーをめぐる状況はますます不確実なものとなっている。1970年代の石油危機(オイルショック)によって、それまで急速に増加していた石油消費の伸びはゆるやかに、天然ガスや原子力の利用が拡大してきた。また、省エネルギーに対する関心が高まり、リサイクルやリユースの取り組みも進められるようになってきた。(中略)2000年代になると資源・エネルギーの価格が上昇したため、資源の効率的な利用やエネルギーの多様化が進められている。2011年に起きた福島原子力発電所の事故は世界に大きな衝撃を与え、地域の特色を生かしたエネルギーの利用が重視され始めている。</p> <p>・世界のエネルギー政策は、自然環境や経済・政治の状況によって多様である。日本の原子力発電所の事故は、ヨーロッパに暮らす人々にも大きな衝撃を与えた。ドイツは、2022年までに国内の原子力発電所をすべて廃止することを決定し、再生可能エネルギーへの転換を加速している。(中略)流量が豊富な河川に恵まれたブラジルでは、電力の8割を水力でまかなっている。1970年代からは、石油危機と砂糖価格低迷への対策として、さとうきびを原料とするバイオエタノールの生産と利用が推進され、国内のガソリンスタンドではバイオエタノールを燃料として売るのが一般的になっている。</p>
二宮	309	基本地理A	有 無	P153 本文 P154 本文	第4章地球的課題 第4節資源・エネルギー問題	<p>・2011年の東日本大震災では、地震や津波の影響を受けて福島第一原子力発電所で重大な事故が発生し、原子力発電の安全性が問われることとなった。</p> <p>・自然環境への負荷が小さく、資源を枯渇させることなく利用できる、再生可能エネルギーの利用が進んでいる。太陽をエネルギーとする発電には、太陽光を直接電力に変換する太陽光発電や、太陽熱を集めて発電する太陽熱発電がある。太陽光発電は、家庭用としても普及しつつある。また、風の強い地域では風力発電が、火山の多い地域では地熱発電が行われている。沿岸部では、潮の満ち引きを利用した潮汐発電や、波の上下の動きを利用した波力発電も行われている。バイオマスエネルギーは、植物などの生物資源を燃料として生み出されるエネルギーで、植物が成長時に吸収した二酸化炭素の量と、バイオマスエネルギーの燃焼時に排出される量がほぼ等しく、環境への負荷の少ないエネルギーとされる。EU・アメリカ・ブラジルなどでは、バイオエタノールが自動車用の燃料として使われている。</p>
第一	310	高等学校 新版 地理A 世界に目を向け、地域を学ぶ	有 無	P151 本文 P152 本文 P152 図 P152 図 P152 写真 P152 写真	第1編現代世界の特色と諸課題の地理的考察 4章私たちが直面する地球的課題 5資源・エネルギー問題-せまられる有効な利用	<p>・世界は1970年代に2度のオイルショックを経験した。先進国は、重要な資源を特定の地域に依存するリスクを避けるために、メキシコ湾岸や北海などで油田の開発を進め、省エネルギー対策と石油備蓄に努めた。さらに、石炭のガス化・液化、天然ガス、原子力などの石油代替エネルギーや、太陽の光や熱、風力、水素エネルギーなどの新エネルギー(再生可能エネルギー)の開発・利用に、国をあげて取り組んでいる。</p> <p>・2011年の福島第一原子力発電所の事故を受けて、スイスやドイツのように改めて脱原発政策をとる国も出てきており、原子力発電は、その安全性の問題が大きく問われている。原子力発電の先行きが見通せない中で、自然エネルギーに注目が集まっている。日本はかつて太陽光発電システムの生産量・導入量とも世界一であった。しかし、2000年代半ば以降、ドイツやスペイン・アメリカ・中国など各国の開発が進み市場規模が拡大した反面、競争が激しくなり日本のシェアは大きく低下した。年間を通じて安定した風を必要とする風力発電は、ドイツやデンマークなど偏西風を利用できる北海沿岸の国で普及している。新規造山帯に位置し、地殻変動の影響を受ける日本やイタリア、ニュージーランドなどでは、地震や火山災害のリスクを負う一方、地熱エネルギーを利用できるメリットもある。</p> <p>・『日本の一次エネルギー供給構成の推移』 ・『おもな国の再生可能エネルギーの構成』 ・『メガソーラー発電所』 ・『北海の洋上風力発電所』</p>

「別紙2-6」 【(1) 内容 イ 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い】 (地理A)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
清水	311	高等学校 現代地理A 新訂版	① 無	口絵6 本文・写真	第1編 現代世界の特色と諸課題の地理的考察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西アジアの産油国は将来をみすえて、豊かなオイルマネーを使って、石油から太陽光・風力発電などの再生可能エネルギーへの大転換をはかっている。アラブ首長国連邦のアブダビは、再生エネルギーによって、二酸化炭素をいっさい排出しない近未来都市(マスタートルシティ)の建設を進めている。また、北アフリカのサハラ砂漠一帯に巨大な太陽光発電施設を建設して、ヨーロッパへの電力供給をはかる大規模なプロジェクトも進められている。</li> <li>・風量発電タービン付のビル、マスタートルシティの完成予想図、砂漠に設置された太陽光発電施設</li> </ul>
				P52 注記	第2章 世界の諸地域の暮らしと人々 4節 中央・西アジア、北アフリカの人びとの暮らし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1979年のイラン革命により、イランからの原油供給がとだえると、第2次石油危機がおこった。一方、先進国は2度の石油危機を経て、石油の備蓄、石油代替エネルギーの開発や実用化、省エネルギー化を進めた。</li> </ul>
				P95 本文	8節 中央・南アメリカの人びとの暮らし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境によいとされるバイオエタノールの原料となるサトウキビ栽培の拡大などの影響により、アマゾンの熱帯林は、従来の想定以上の2倍以上の速さで焼失しているともいわれる。</li> </ul>
				P98 写真	9節 オセアニアの人びとの暮らし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄鉱石の露天掘り</li> </ul>
				P106~107 本文	第3章 地球的課題の地理的考察 1節 地球環境問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パーム油は、マーガリンや食用油、石けんなどの工業原料のほか、バイオ燃料としての需要も増加している。バイオ燃料の利用では、CO2の総排出量は増加しない。また、その利用が化石燃料の消費量を減らすことでCO2排出量を削減することから、温暖化防止に貢献するとされている。しかし、そのバイオ燃料の需要が熱帯林の破壊を引き起こすという皮肉な結果になっている。同ような例はブラジルにもみられる。</li> </ul>
				P108 本文	2節 資源・エネルギー問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業革命以前において、主要なエネルギー資源は薪や炭、あるいは風力や水力などの自然エネルギーであった。それが産業革命を契機に化石燃料である石炭へと変化した。蒸気機関の発明、コークスを利用する製鉄技術の普及などの技術革新によって、石炭はエネルギー資源として重要な地位をしめるようになった。</li> <li>・石油が大量に使用されるようになるのは19世紀中ごろにアメリカで新しい石油の探掘方式が開発されてからであった。石油の大量生産は、同時に進んだ内燃機関の普及によって後押しされた。自動車、飛行機、船舶などのエンジン燃料として石油が使用され、20世紀には石油が主要なエネルギー資源として重視されるようになった。第二次世界大戦後、西アジア、アフリカにおいて大規模な油田が発見され、石油は大量に安く供給されるようになった。さらに石油は、燃料だけでなく、石油化学製品の原料として、その消費量を増やしている。1960年代には石炭をぬき、石油の大量消費時代に入った。この資源の転換を「エネルギー革命」とよんでいる。</li> </ul>
P110 本文		<ul style="list-style-type: none"> <li>・石油・石炭などの化石燃料の埋蔵量にはかぎりがある。また、化石燃料の消費は二酸化炭素を排出し、地球温暖化の要因ともなっていることから、代替エネルギーへの関心が高まっている。原子力発電は、1950年代に原子力発電所が開発されて以来、電力エネルギー源として多くの国で導入された。</li> </ul>				
P111 本文		<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオマス、太陽光・熱、風力など、環境に負荷をあたえない再生可能エネルギーが目目されている。日本でも徐々に導入が進められ、風力発電に利用される巨大な風車が各地で見られるようになった。しかし、発電にかかるコストが割高で出力が不安定であるなど、解決すべき課題も多い。</li> <li>・バイオ燃料は、ガソリンへの混合利用を目的としたバイオエタノールと、軽油の代替燃料としてのバイオディーゼル燃料がある。バイオエタノールは、サトウキビやトウモロコシなどのバイオマスを発行させてつくるエタノールで、石油の代替エネルギーとして実用化が進んでいる。再生可能なエネルギーであり、燃焼による地球上の炭素量に増加がないこと、また、現在使われているエンジンなどをほぼそのまま利用できる点で注目されている。</li> <li>・バイオエタノールのおもな生産国は、アメリカとブラジルであり、世界の生産量の約70%(2012年)をしめている。アメリカではトウモロコシ、ブラジルではサトウキビを主たる原料としている。アメリカでは2005年、エネルギー政策法によってバイオエタノール利用にはずみがつき、それが国際的なトウモロコシ価格の上昇につながった。ブラジルでもサトウキビ生産の拡大が熱帯林破壊につながっている場合もあり、バイオエタノールの利用が新たな地球的課題を生んでいる側面もある。</li> </ul>				

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
帝国	312	高校生地理A	有 無	<p>P134 写真 P134 写真 P134 図 P134 NEWS</p> <p>P135 本文</p> <p>— P135 図 P135 写真</p> <p>P136~137 本文</p> <p>P137 図 P137 写真 P137 図 P137 図</p>	<p>第1部 現代世界の特色と世界の諸地域の課題 4章 地球規模で広がる課題 ④世界の資源・エネルギー問題</p>	<p>・ベルシャ湾岸の大規模な石油精製施設 ・ラストヌーラ沖の石油ターミナルで原油を積み込むタンカー ・原油の輸出国と輸入国 ・石油王国サウジアラビア</p> <p>・私たちは日々さまざまな資源を消費している。鉄鉱石などの鉱産資源、石油・石炭・天然ガスを含む化石燃料などのエネルギー資源は、私たちの生活に欠かせないものである。これらの資源は、世界のどこからでも産出されるわけではない。例えば、原油は埋蔵量の大部分が西アジアにあり、石炭は世界の半分以上が中国で産出されている。一方、生産された資源の多くは、欧米や日本などの先進国と、中国やインドなどの新興国で消費されている。このように、資源の生産と消費には地域によるかたよがりがあり、地球規模で資源・エネルギーの移動が生じている。</p> <p>人類は古くから様々なエネルギー資源を利用してきたが、その種類は時代によって変わってきた。第二次世界大戦のころまでは、石炭がエネルギー源の中心であった。1960年代後半には、石炭よりも熱効率が高く、液体で運搬しやすい石油が主役となった(エネルギー革命)。石油開発が始まった20世紀前半、産油国は石油の探掘や精製の技術をもっていなかった。そのため、欧米の国際石油資本(メジャー)が技術や資金をもち込み、独占的に石油開発を行っていた。これに対して、産油国では、自国の資源を自国で開発・利用しようという資源ナショナリズムの動きが高まり、1960年に石油輸出機構(OPEC)が結成された。原油価格や産出量の決定権を獲得した産油国が、2度にわたって産出量と輸出量を制限したため、原油価格の高騰による石油危機(オイルショック)が起こった。これにより先進国では経済が混乱したが、産油国には巨額の石油収入がもたらされた。</p> <p>・世界のおもな油田の分布と原油の移動 ・石炭の生産国と輸出国 ・OPEC総会のようす</p> <p>・石油危機を経験した先進国では、メキシコなどOPEC非加盟国での石油開発や、自国での石油備蓄などに力を入れるようになった。また、フランスのように、輸入にたよらざるを得ない石油にかわって、原子力の利用を拡大させた国もある。一方、流量が豊富な河川に恵まれたブラジルでは、国内発電量の約7割を水力でまかなっている。このように、各国のエネルギー利用の構成は、その地域の自然環境や利用可能な資源によって異なっている。</p> <p>・石油危機以降、省資源や省エネルギーへの関心が世界的に高まり、リサイクル(資源化)などの取り組みが積極的に進められるようになった。</p> <p>また、世界各国の再生可能エネルギーの開発や導入も行われている。再生可能エネルギーのなかでは、風力発電が最も利用されており、中国やアメリカ合衆国では、発電量が急増している。ヨーロッパでは自然エネルギーを積極的に活用している国が多く、例えばドイツやデンマークでは1年を通じて吹く偏西風を利用した風力発電、イタリアやスペインでは日射量の多さを利用した太陽光発電の導入が進んでいる。そのほか、バイオマスエネルギーも普及しつつあり、ブラジルではさとうきびを原料とするバイオエタノールが自動車燃料として用いられている。</p> <p>原油価格が高値で推移するようになった2000年代以降は、シェールガスやシェールオイルなど、従来の油田・ガス田以外から算出される新しい化石燃料の開発も活発になっている。とくに埋蔵量が多いシェールガスは、アメリカ合衆国を筆頭に生産量が急増しており、三種国の勢力圏を塗りかえて世界の原油価格にも影響を与えている。</p> <p>・資源の自給率が低い日本は、エネルギーの多様化や安定供給が課題である。石油危機後の日本では、東南アジアの天然ガスやオーストラリアの石炭など、エネルギー資源の輸入先の多角化が進められた。また、省エネルギー技術の開発も積極的に行われ、現在では世界的にも高い水準のエネルギー効率を実現している。例えば、電気自動車などの蓄電池や燃料電池の技術、省エネルギー性能の高い家電製品などが例としてあげられる。また、レアメタルを廃棄物の中から回収・再利用する技術に加えて、代替技術の開発も進められている。近年は、化石燃料の一種であるメタンハイドレート(固体のメタンガス)が日本の周辺海域で発見され、新たな資源として注目されている。2011年の福島第一原子力発電所事故を機に、原子力発電の是非が問われ、日本の総発電量に占める原子力の割合は大幅に減少した。その反面、化石燃料への依存度が高まったことから地球温暖化への影響が懸念されており、再生可能エネルギーの積極的な活用が進められている。</p> <p>・風力発電と太陽光発電の国別割合 ・臨海部につくられたメガソーラー ・従来の天然ガスと、シェールガスの採掘方法(模式図) ・日本のエネルギー資源の輸入相手国と自給率</p>



「別紙2-7」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 オリンピック、パラリンピックの扱い】 (地理A)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
東書	307	地理A	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	P71 本文 P74 本文	第2編世界の生活文化の多様性 第2章諸地域の生活・文化と環境 1東アジアの生活・文化と環境	・特に2008年にオリンピックが開催された首都ベキンには、政府機関や大学が集中し、ハイテク産業や情報通信産業が多く立地している。 ・ソウルオリンピック(1988年)の建設ラッシュもあり、高い経済成長は続き、ハイテク産業の比重が高まった。
帝国	308	高等学校 新地理A	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	P73 図表	1部世界の諸地域の姿と地球的課題 3章世界の諸地域の生活・文化 2節韓国の生活・文化	・『朝鮮半島のあゆみ』 1998 ソウルオリンピック開催(北朝鮮は不参加)
二宮	309	基本地理A	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	P25 本文 P129 本文 P136 ワーク	第1章球面上の世界 第3節地図で見る世界のつながり 第3章世界の諸地域の生活・文化 第10節ラテンアメリカ 第11節オセアニア	・2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックへ向けて、さらなる増加が期待されている。 ・2014年にサッカーのワールドカップが開催されたブラジルでは、2016年に夏季オリンピック・パラリンピックが開催される。 ・オリンピックやワールドカップの開会式では、さまざまな国の人々が一堂に会する。そこで、あなたが旅行雑誌の編集者になったつもりで、一つの国を選んで紹介してみよう。
第一	310	高等学校 新版 地理A 世界に目を向け、地域を学ぶ	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	P8 ワーク P66 図表 P134~135 ワーク	第1編現代世界の特色と諸課題の地理的考察 1章地球儀や地図でとらえる現代世界 2世界地図の特徴を知ろう 3章世界の諸地域の生活・文化と環境 1東アジアの暮らしを学ぶ 4章私たちが直面する地球的課題 1地球的課題の地理的側面	・時差の学習において、オリンピックを生中継した時の日本の時間を求める問題が掲載されている。 ・『中国のGDP(国内総生産)の推移』北京オリンピック(2008) ・『オリンピックから世界を見てみよう』 2020年の東京オリンピック開催されることを記述するとともに、今までの開催国の状況をグラフにまとめ、オリンピック参加国数と社会の状況や開催都市の特色を考えさせる問題を掲載している。
清水	311	高等学校 現代地理A 新訂版	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>			
帝国	312	高校生の地理A	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>			

「別紙3」【(2)構成上の工夫】(地理A)

発行者	教科書番号	教科書名	構成上の工夫
東書	307	地理A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ウォームアップ」、「スキルアップ」、「NOTE」、「WORK」、「コラム」、「まとめ・活用」、「討論&amp;記述」が掲載されており、その取扱い方も記載している。</li> <li>・口絵で11ページ、世界の自然環境や文化などを掲載している。書き込み式のワークがあり、写真や図表と同一ページに配置している。</li> <li>・重要語句は太文字で表示している。</li> <li>・大きな単元ごとに「まとめ・活用」が配置されている。</li> <li>・巻末に、主題図作成用の日本地図と世界地図が付いている。</li> </ul>
帝国	308	高等学校 新地理A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「リード」、「ところ変われば」、「クローズアップ」、「現地レポート」、「チェック」を掲載しており、生徒の学習意欲が高まる工夫をしている。</li> <li>・「技能をみがく」という項目があり、図表を掲載し地理的技術の育成に活用できる。</li> <li>・重要語句は太文字で表示されており、教科書脇の用語説明や図表と関連した番号が振られている。</li> <li>・チェックで図表を活用する問題が掲載されている。様々な資料の活用を提案している。</li> </ul>
二宮	309	基本地理A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容補充・用語解説・Questionを掲載している。</li> <li>・GPSの利用やGISによるアニメの地図作成、アニメと風景写真との比較を掲載している。</li> <li>・重要語句は太文字で表示しており、用語解説と関連した番号を振っている。</li> <li>・「地理の技能」や「ステップアップ」を適切に配置し、学習意欲を高める工夫をしている。</li> </ul>
第一	310	高等学校 新版 地理A 世界に目を向け、地域を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学習の手掛かりとなる工夫として、「アプローチ」、「TRY」、「学習を深めよう」を掲載している。</li> <li>・書き込み式のワークがあり、生徒の地理的技術を高める工夫をしている。</li> <li>・重要語句は太文字で表示している。また、地形図の読図に関わるページがあり、付属のクリアフィルムにより、地図を重ねて作業ができるよう工夫している。</li> </ul>
清水	311	高等学校 現代地理A 新訂版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学習の手掛かりとなる工夫として、「いまがわかる」、「トライ」、「地図を知ろう、地域を探ろう」や内容解説・用語補充が掲載されている。</li> <li>・口絵の世界の自然環境や生活文化などの様々な写真や図が多く掲載されており、地理的技術の育成に活用できる。</li> <li>・用語解説や注記と関連した番号や内容が見やすく記載されている。</li> <li>・巻頭の「地球の大地形」、巻末の「現代の世界」や、同一地域の新旧地形図の比較をとおして、学習意欲を高める工夫をしている。</li> </ul>
帝国	312	高校生の地理A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「Report」、「NEWS」、「トピック」、「旅先でのエピソード」、「発見！日本と世界のかかわり」など様々なコーナーを設定している。</li> <li>・「SKILL」という項目があり、図表の読み取りなど地理的技術に関わる内容が取り扱われている。</li> <li>・冒頭部を旅との関連性を図った構成にすることで、生徒の興味・関心を高める工夫をしている。</li> <li>・本文中の写真や図版が大きく掲載されており、生徒の理解を深める工夫をしている。</li> </ul>